

第6回宮城県津波浸水想定の設定に関する検討会の開催について

1 目的

津波浸水想定は、「津波防災地域づくりに関する法律」に基づき、津波避難体制構築のため、「最大クラスの津波が悪条件下で発生した場合に想定される浸水の区域や水深を都道府県知事が設定し公表するもの」です。

本県では、令和2年7月に専門家からなる検討会を設立し、これまで計5回の検討会を開催し、検討を進めてまいりました。このたび、津波浸水想定の設定(案)の最終案について検討を行うため、第6回宮城津波浸水想定の設定に関する検討会を開催します。

2 開催日時・場所

令和4年3月23日(水曜日) 午後2時から午後4時まで
宮城県自治会館203会議室(仙台市青葉区上杉1丁目2-3)

3 議事

津波浸水想定の設定(案) ほか

4 取材について

検討会は非公開(情報公開条例第19条)とし、カメラによる撮影は、議事に入る前までとさせていただきます。

なお、検討会終了後、今村座長(東北大学災害科学国際研究所長)及び事務局により、取材対応いたします。(15分程度)

取材御希望の場合、会議開催10分前(午後1時50分)までに会場で受付願います。

5 新型コロナウイルス感染症対策

- ・マスク着用，手指消毒への協力をお願いいたします。
- ・風邪のような症状がある方は入室を控えてください。
- ・体温が37.5℃を超える場合は，入室をお断りさせていただきます。



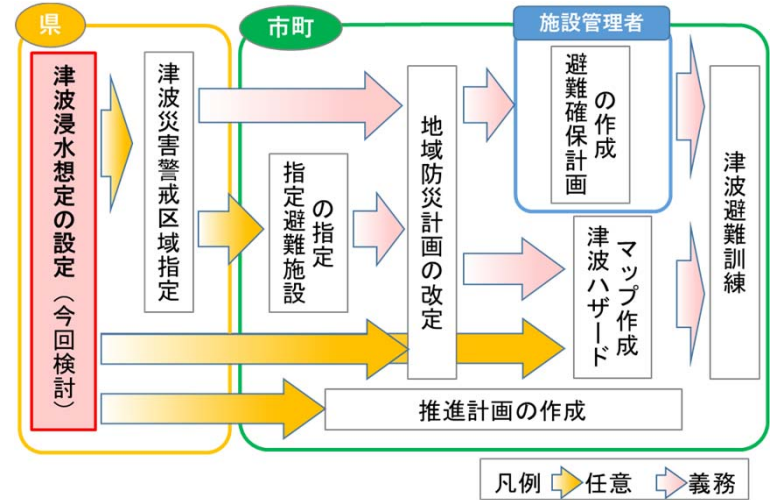
●津波防災地域づくりに関する法律の概要（平成23年12月27日施行）

基本理念『**なんとしても人命を守る**』ハード・ソフトの施策を総動員させる「**多重防御**」の発想によって津波防災地域づくりを推進

～津波防災地域づくりのイメージ～



～津波防災地域づくりに関する法律の流れ～



●全国の津波浸水想定設定状況は、全国40都道府県中37道府県で設定し公表済み（R4.2.28国交省HPより）

●津波浸水想定とは

最大クラスの津波が悪条件下で発生した場合に想定される浸水の区域及び水深を都道府県知事が設定し公表するもので、『**避難**』を軸とした**津波防災対策構築の基礎資料**となるもの。

- ・最大クラスの津波の断層モデルの設定【東北地方太平洋沖，日本海溝，千島海溝各モデル】
- ・津波浸水シミュレーション
地形データや各種施設の条件を設定し，シミュレーション実施
悪条件下での設定（朔望平均満潮位，越流時堤防破壊，地盤沈降考慮など）
- ・**最大クラスの津波が悪条件下で発生**した場合に想定される浸水範囲・水深を表示。



津波浸水想定図イメージ

東日本大震災の津波で浸水しなかった場所やかさ上げた市街地が、浸水範囲に含まれる場合がある。

最大クラスの津波とは

発生頻度が極めて低いものの発生すれば甚大な被害をもたらす津波（東日本大震災の津波など）
※防潮堤は、数十年から百数十年に一度発生する比較的頻度の高い津波に対応できるよう整備しています。

津波浸水想定は、

最大クラスの津波が、考え得る悪条件がかさなる状況にて発生するという条件で計算しています。
想定外をなくすため、「なんとしても人命を守る」避難の範囲を示すものです。

●宮城県津波浸水想定の設定に関する検討会 令和2年7月30日設置

専門家の指導・助言を受けながら調査結果の妥当性評価を行い、津波浸水想定の設定等を検討する。

●検討会スケジュール

- 第1回（R2.7） 計算の条件設定
- 第2回（R3.1） } 東北地方太平洋沖・日本海溝・千島海溝
- 第3回（R3.3） } 各モデル検討
- 第4回（R3.8） 市街地部詳細検討
- 第5回（R4.1） 津波浸水想定図（案）の検討
- 第6回（R4.3） 津波浸水想定の設定

	所属	氏名	専門
委員	東北大学災害科学国際研究所 所長	今村 文彦	津波工学
委員	東北大学大学院理学研究科 教授 地震・噴火予知研究観測センター	松澤 暢	地震学
委員	東北大学災害科学国際研究所 教授	越村 俊一	広域被害把握
委員	東北大学大学院理学研究科 教授 地震・噴火予知研究観測センター	日野 亮太	地殻変動学
委員	国土交通省国土技術政策総合研究所 河川研究部海岸研究室 室長	加藤 史訓	海岸工学
委員	宮城県土木部 部長	佐藤 達也	行政(県)